



株式会社 常磐植物化学研究所
CSR Report 2016
(社会・環境活動レポート2016)

対象期間 : 2015年4月～2016年3月

発行日 : 2016年8月1日

植物のちからを健康に。

目次

社会への貢献を目指して	2
社会地域とともに	
【佐倉アカデミア】	3
【薬用植物に関する情報提供】	4
【ハーブ植物園を通じたお客様との対話】	4
【周辺美化活動】	4
【防災訓練】	4
【地域消防団への参加】	4
【献血】	4
従業員とともに	
【人と人が繋がる職場づくり】・【キャリア支援】	5
【ワークライフバランス】・【女性の活躍支援】	5
【メンタルヘルス】・【労働安全衛生】	5
【新入社員歓迎 tokiwaフェスタ】・【軟式野球部】・【年末レクリエーション】	5
植物化学の発展のために	
【研究機関、大学との共同研究】	6
【共同研究報告】	6
【自社研究報告】	6
【植物化学に関連する学会、研究会への参画・寄付・協賛】	6
【植物化学に関連する各種加盟団体】	6
持続可能(サステナブル)な社会のために	
【ゼロエミッション活動】	7
【薬用植物資源保全に関わる研究に参画】	7
【水質に配慮した生産活動】	7
【グリーン調達・グリーン購入】	7
環境活動レポート(エコ・アクション21)	
エコ・アクション21とは	8
環境方針	8
登録事業所の概要・環境経営組織図	9
環境活動の取組計画と評価	10・11
2016年度 環境活動計画	12
中期目標(2016年～2018年)	12
環境関連法規の遵守状況	13
代表者による評価と見直し	13

常磐植物化学研究所

CSR Report 2016

【社会への貢献を目指して】

常磐植物化学研究所のCSR Report 2016をご覧ください、誠にありがとうございます。

弊社は、1949年の設立当初から植物化学の成果の医薬的応用によって、社会公衆の福祉増進へ寄与することを掲げ、社員の幸福と社会の発展に貢献する良き企業市民であることを経営理念の柱のひとつとしています。2008年より環境経営システムを導入し、弊社の社会・環境活動をご報告するCSRレポートを2009年より発行しています。本CSR Reportで弊社の取組を紹介しております。ご高覧いただけると幸いです。

今後も事業活動を通じて植物化学と地域社会の発展に貢献して参ります。



株式会社常磐植物化学研究所
代表取締役社長 立崎 仁

「設立趣意書」

本社は薬学博士松尾仁氏を中心とする研究陣の豫ねて理想とする植物化学の成果の医薬的応用により、社会公衆の福祉増進に寄与することを念願として設立するものである。

したがって本社の事業は単に営利のみを目的とせず、一半の力を植物化学の発達にも投ぜんとするものである。

若し之に依って祖国再建の礎石の一半を荷うこととなれば、本社設立の趣旨は達成されたに近い。

昭和二十四年八月
株式会社常磐植物化学研究所 設立発起人

「経営理念」

- 1.植物の力を引き出し、新たな価値を創造します。
- 2.最高の技術で、最高の製品を製造します。
- 3.社員の幸福と社会の発展に貢献します。

「CSR基本理念」

私たちは、植物と共にあらゆる可能性を追求することにより社会へ貢献します。持続可能な企業活動を行うために、植物資源の調達から、植物化学研究及び開発加工、製品化、すべてにおいて、地球環境への影響を重視し、積極的に保全活動に努めます。また、薬用植物の試験栽培、科学教育の推進を通じて、植物化学の発展、植物とヒトの豊かな社会作りに貢献します。



社会課題

実験講座、体験実習を通じて、科学が身近にあることを体感してもらい、次世代の科学技術系人材の育成の貢献に取り組んでいます。戦後初の植物化学企業として、製品の販売だけでなく、科学発展の一助になればと考えています。



科学技術関係人材の育成の背景

天然資源に乏しく、また今後も人口減少が見込まれる我が国において、科学技術イノベーション政策を強力に推進していくためには、これを担う優れた人材を絶え間なく育成、確保していくことが不可欠であり、このような人材に係る取組は、国として特に重点的かつ横断的に取り組むべきものです。このため文部科学省では、初等中等教育段階から、大学学部、大学院、社会人に至るまで、連続性を持った取組みを総合的に推進しています。



学校教育段階における科学技術人材育成支援

(初等中等教育段階における科学技術人材育成支援)

文部科学省では、子どもが科学技術に親しみ、学ぶことができる環境や科学技術に才能を有する子どもを見出し伸ばすことができる環境を提供するため、理数学習の充実に努めています。



スーパーサイエンスハイスクール(SSH)

文部科学省では、将来の国際的な科学技術関係人材を育成するため、先進的な理数教育を実施する高等学校等を「スーパーサイエンスハイスクール」として指定し、学習指導要領によらないカリキュラムの開発・実践や課題研究の推進、観察・実験等を通じた体験的・問題解決的な学習等を平成14年度より支援しています。

千葉県立佐倉高等学校：佐倉アカデミア(SSH指定校)

本年も7月17日に千葉県立佐倉高等学校の1・2年生 23 名を対象に、常磐植物化学研究所にて「植物の成分を精製しよう！」と題した実験実習の後、本社工場施設及びハーブ園の見学を行いました。

冒頭の講義により数千を超える成分を持つ植物からどのようにして、目的の成分を取り出すか、という原理を学んだ後、実際の方法を体験します。

実験実習後に施設見学を行うことで科学が実際に利用されている、生産現場を知ってもらいました。





【薬用植物に関する情報提供】

Webサイト内の「薬用ハーブ辞典」
(<http://www.tokiwapph.co.jp/herbs/>)では、
25種類の西洋ハーブや東洋ハーブについて、
学名、成分、概要、生理活性等の情報を提供
しています。

これらの情報発信を通じて、植物成分の有効
利用を促進することをめざしています。
2015年度には、25品目に達しました。
毎年徐々に増やし充実させています。



カンゾウ (Licorice)

▶ 学名

Glycyrrhiza glabra L.,
G. uralensis F.,
G. inflata Batt.



ラフマ(Luo-bu-ma)

▶ 学名

Apocynum venetum L.

▶ 科名

キョウチクトウ科



【ハーブ植物園を通じたお客様との対話】

本社工場に隣接したハーブ園では、一般の
植物園では見かけることの少ない有用植物を
含む、100種類を超える西洋ハーブや東洋
ハーブを無料で見学していただいています。



【周辺美化活動】

毎月、本社工場周辺の清掃を行なっています。

2007年11月より開始し、3月の活動で88回をかぞえました。

2012年11月(第49回目)より美化活動に加え、挨拶運動を開始しました。

「挨拶 地元を元気に！」の合言葉の下、清掃活動を継続していきます。



【防災訓練】

本社では年1回、全員参加の防災訓練を行っています。

今年も12月25日に行いました。移動した先では、防火委員会の方から

消火器の使い方の講習を受けた後、実地訓練を行いました。



【地域消防団への参加】

2015年度から、佐倉市消防団第4分団に参加しています。

市民防災訓練への参加や、歳末警戒活動などを通じて、

市民の皆さんに火災予防を呼びかけています。



【献血】

本社では毎年春に献血車が来て、従業員が献血に協力しています。

今年も、5月13日に献血車がやって来ました。

この献血は就業時間中に従業員が自由に参加できることから、

一番協力しやすい社会貢献の一つとして、実施しています。



従業員とともに

安全で働きやすい職場環境を整えるとともに、一人ひとりがやりがいと誇りを持って働くことができるよう取り組んでいます。



【人と人が繋がる職場づくり】

働く人の、活力の源泉は「ほめられる」ということであり、そこから誇りや認め合い、生きがいにつながります。「あなたが良いと思ったことだけをどんどん書いてください」というルール「エンジェルレポート」を実施しています。よく取り上げられる従業員には表彰も行います。



【ライフワークバランス】

長時間労働の削減と、休暇の取得促進に取り組んでいます。月に一度のノー残業デーを実施しました。また、年に1度のハッピーファミリーデー（公休及び記念品）を付与する取り組みを継続しています。



【メンタルヘルス】

残業が一定時間を越える従業員に対してストレスチェックを行い、産業医に報告すると共に、希望に応じて面談を実施しています。組織的なメンタルヘルスへの取り組みを継続しています。



【キャリア支援】

OJTを通じ自立型人材を育成します。全ての社員に成長する機会を与えられるよう階層別、テーマ別研修を設けています。最近では、管理職のヒューマンスキルを高める研修や新人・若手社員の早期戦力化に向けた研修に力を入れています。



【女性の活躍支援】

女性の活躍支援に取り組んでいます。新任管理職への研修などを実施。女性がこれまで以上に活躍できる職場環境づくりを展開してきました。お子様の成長に合わせて、柔軟に時短勤務制度を取り入れています。



【労働安全衛生】

厚生労働省の指針に基づく、労働安全マネジメントシステムに沿い、安全な職場づくりに取り組んでいます。「安全衛生状況確保の為の教育」「自主的な安全衛生管理の向上」「健康の保持促進と快適な職場環境の形成」「資格取得促進法令遵守」を目標に掲げ、快適且つ安全なより良い職場環境作りを目指しています。



【新入社員歓迎tokiwaフェスタ】

新入社員歓迎のtokiwaフェスタが開催されました。新入社員の皆様に、「流星クロトン」という観葉植物の鉢植えを贈呈。そして、大きな「入社おめでとう」ケーキのローソクを吹き消していただくプチセレモニーも。おいしい料理を楽しみながら、ワイワイと楽しい時を過ごしました。



【軟式野球部】

第32回千葉県食品製造健康保険組合軟式野球大会の準決勝・決勝において、当社野球部が「3連覇」を達成しました。



【年末レクリエーション】

年末の最終日には餅つきが行われています。一年の労をねぎらい、お正月を迎えます。



植物化学の発展のために

常磐植物化学研究所は植物化学の発展への貢献活動の一環として、関連する学会、機関、大学等への参画、協賛、共同研究等を行っています。

【研究機関、大学との共同研究】

(研究機関)

国立医薬品食品衛生研究所、独立行政法人理化学研究所、北里大学東洋医学総合研究所
かずさDNA研究所、国立精神・神経研究医療センター、国立医療長寿健康センター、富山県薬事研究所
東京都医学研究所

(大学等)

東京大学、慶応義塾大学、千葉大学、北里大学、星薬科大学、筑波大学、東京理科大学、横浜市立大学
帝京大学、武蔵野大学、University of Malaya 等

【共同研究報告】

①エフェドリンアルカロイド除去麻黄エキス(EFE)の創薬開発

国立医薬品食品衛生研究所、北里大学東洋医学総合研究所および株式会社常磐植物化学研究所は、国立研究開発法人 日本医療研究開発機構(AMED)の創薬基盤推進研究事業「医薬品等の品質・安全性確保のための評価法の戦略的開発」内プロジェクトである『エフェドリンアルカロイド除去麻(マ)黄(オウ)エキス(EFE)共同開発』を2014年4月より推進しており、EFEの成分組成の評価、薬理作用の性能評価、量産化のための製造法を確立した。

②カンゾウ属植物由来トリテルペン酸化酵素、それをコードする遺伝子及びその利用法

オレアナン型トリテルペンを酸化する活性を有するタンパク質、及びそれをコードする遺伝子を同定し、当該タンパク質、遺伝子及びそれらの利用を提供する。例えば、マメ科植物から得られるオレアナン型トリテルペンを酸化する活性を有するタンパク質、それをコードする遺伝子を導入した形質転換体を作製し、トリテルペン酸化酵素を得ることができる。

③漢方製剤の薬効を担保する品質評価手法に関する研究

国立医薬品食品衛生研究所からの委託事業として、
「医薬品等の品質・安全性確保のための評価法の戦略的開発」について報告した。

【自社研究報告】

- ・The Improvement of Sleep by Oral Intake of GABA and Apocynum venetum Leaf Extract
- ・Evaluation of the Safety and Efficacy of Kaempferia parviflora Extract (SIRTMAX®) in Human
- ・Endothelium-Dependent Relaxation Effect of Apocynum venetum Leaf Extract via Src/PI3K/Akt Signalling Pathway

【植物化学に関連する学会、研究会への参画・寄付・協賛】

日本学術振興会 - 植物分子デザイン第178委員会、植物化学シンポジウム(植物化学研究会)
日本植物細胞分子生物学会、(公財)木原記念横浜生命科学振興財団、日本薬史学会
日本ハーブ療法研究会、理化学研究所と親しむ会、小石川植物園

【植物化学に関連する各種加盟団体】

(公社)東京生薬協会、(公社)東京医薬品工業協会、日本漢方生薬製剤協会、日本医薬品原薬工業会
(一社)千葉県製薬協会、(一社)日本食品添加物協会、(公財)日本健康・栄養食品協会
(一社)日本栄養評議会、(一社)日本健康食品規格協会、化粧品原料協会、甘草工業懇話会
ステビア工業会、(一社)日本ブルーベリー協会、千葉県食品産業協議会

持続可能(サステナブル)な社会のために

「低炭素社会の実現」、「循環型社会の実現」、「自然との共生」をめざし、地球環境と調和した事業活動を通して環境負荷の低減に取り組んでいます。



【ゼロエミッション活動】

植物資源を無駄なく使用し、廃棄するものを少なくすることにより、環境への負荷を軽減します。

植物エキスの製造後に排出される搾りかす、及び排水処理場の余剰汚泥を肥料へリサイクルするなどの取り組みを行っています。
リサイクルされた肥料は作物の栽培に利用され、新たな植物資源を生み出しています。



植物エキス製造



栽培



残渣堆肥化



【薬用植物資源保全に関わる研究に参画】

独立行政法人理化学研究所との共同研究において、薬用植物資源として重要な甘草から得られる有用成分(グリチルリチン酸)の生合成に関する特許を取得しました。

特許権者：株式会社常磐植物化学研究所
独立行政法人理化学研究所

【発明の名称】

カンゾウ属植物由来トリテルペン酸化酵素
それをコードする遺伝子およびその利用



【水質に配慮した生産活動】

工場での水資源の無駄づかいをなくすための改善を積み重ねるとともに、使用後の排水をきれいに自然に還すために水質保全に取り組んでいます。
工場に併設されている排水処理設備においては、「活性汚泥処理法」を採用しています。
微生物が排水の汚れである栄養成分を食べることにより、汚れを取り除いています。



【グリーン調達・グリーン購入】

グリーン調達とは、原材料・資材・設備などの購入に際し、有害物質を含まない、資源が有効に活用されている、など環境に配慮した物品・サービスを優先的に選択することです。
持続可能な社会の構築のために、使用する物品について、環境負荷ができるだけ小さい原材料・資材・設備等の購入をめざします。

常磐植物化学研究所は、環境経営を実践するために、環境省が策定したガイドラインである「エコアクション21認証登録制度」に登録し、自らの環境への取り組みを推進しています。またエコアクション21に参加する事で、地域環境の取組みも積極的に行っています。

エコアクション21とは、全ての事業者が、環境への取り組みを効果的・効率的に行うことを目的に、環境に取り組む仕組みを作り、活動し、継続的に改善し、その結果を社会に公表するための方法について、環境省が策定したガイドラインです。

エコアクション21ガイドラインに基づき、取り組みを行う事業者を審査し、認証・登録する制度がエコアクション21認証・登録制度です。



エコアクション21
認証・登録番号0003872

環境方針

わたしたちは地球環境問題を重視し、次の項目を経営課題として取り組みます。

1. 環境経営体制の強化

環境改善を継続的かつ発展的に行っていくための経営管理サイクルを強化します。

2. 脱地球温暖化に向けた省エネルギー及びCO₂排出削減の推進

エネルギー効率を高め、環境にやさしい事業活動に取り組みます。

3. 循環型社会のための3R(Reduce、Reuse、Recycle)の推進

廃水、廃棄物及び食品廃棄物の低減、化学物質使用量削減、有効資源の再使用、紙、ダンボール、金属及び食品等の再資源化を積極的に行います。又、グリーン購入の推進に努め、食品製造工程の改善により、原材料ロスを削減します。

4. 環境関連法規の遵守

環境法規を遵守し、国や地方の行政方針に従います。

5. 環境方針の周知と社内教育の推進

地球環境と共栄していくための教育を行い、社員一人一人の環境保全の意識を高めます。

6. 地域の人々との共生

地域社会の一員として、地域の人々の安全と環境保全に努めます。

2016年4月1日

株式会社 常磐植物化学研究所

代表取締役社長

立崎 仁

登録事業所の概要・環境経営組織図

事業者名及び代表者名

株式会社 常磐植物化学研究所
代表取締役社長 立崎 仁

所在地

本社・工場 : 千葉県佐倉市木野子158番地 <http://www.tokiwapl.co.jp/>
東京支社 : 東京都中央区日本橋本町4-4-16 日本橋内山ビル6F

環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

責任者 製造部次長 : 戸張 雅人
担当者 EA21事務局 : 米山 拓 TEL 043-498-0007

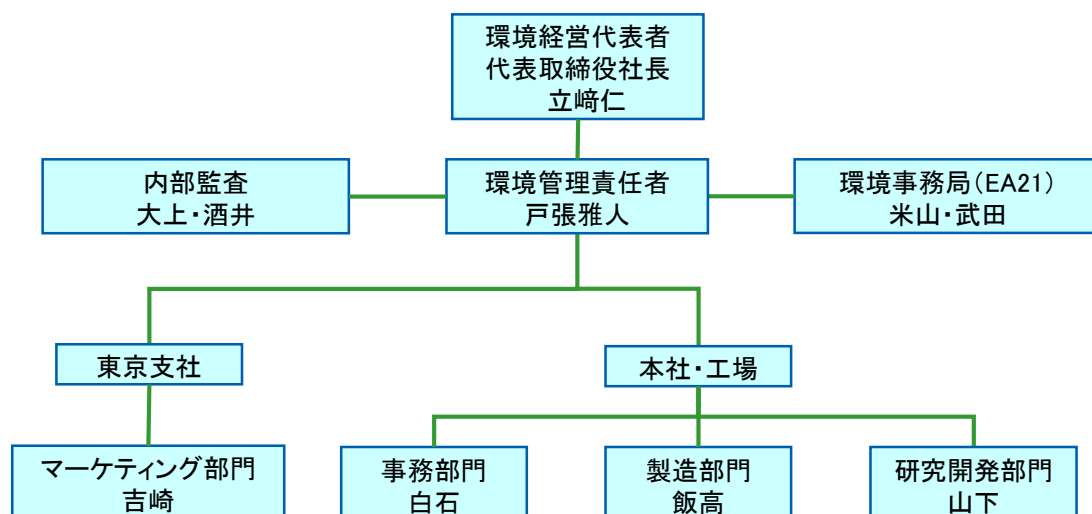
事業内容(認証・登録の範囲)

医薬品原薬、化粧品原料、機能性食品原料及び食品添加物の製造・販売
認証・登録範囲 全組織(本社・工場及び東京支社)及び全活動

事業規模

資本金	7,000万円	
主要製品生産量	428 t/年	
従業員	本社・工場 100名	東京支社 12名 (2016年4月1日現在)
工場延べ床面積	本社・工場 8,297 m ²	東京支社 138 m ²

環境経営システム組織図



環境活動の取組計画と評価

環境目標及びその実績

項目		年度	全 社			本社・工場			東京支社		
			2013年度	2014年度	2015年度	2013年度	2014年度	2015年度	2013年度	2014年度	2015年度
二酸化炭素排出量(電力)の節減	t-CO ₂		1,440	1,384	1,447	1,432	1,377	1,439	5.1	7.8	7.5
二酸化炭素排出量(燃料)の節減	t-CO ₂		2,571	2,488	2,781	2,571	2,488	2,781			
一般廃棄物の削減	総量(t)		36.8	42.7	41.6	36.4	42.4	41.3	0.35	0.28	0.29
産業廃棄物の削減	総量(t)		65.0	59.8	98.3	65.0	59.8	98.3			
総排水の節減	総量(m³)		102,199	95,614	125,545	102,107	95,520	125,430	92	94	115
化学物質 使用量の削減	PRTR法対象 化学物質 変化量(%)		+76.6	-50.3	-6.1	+76.6	-50.3	-6.1			
グリーン購入の推進	品目数		3	2	12	2	2	9	1	0	3
製品毎の製造工程改善	課題数		82	63	78	82	63	78			
食品廃棄物リサイクル率の維持	リサイクル率(%)		98.3	99.2	99.5	98.3	99.2	99.5			
参考／製品の拡売	生産量(t)		506	460	428	506	460	428			

環境活動の取組計画と評価

2015年度 省エネ・省資源取り組み、地球温暖化防止取り組み評価

本社・工場

取組内容	達成状況	評価(結果と今後の方向)
二酸化炭素排出量(電力)の節減 ・休憩時間中の照明の消灯・エコプロ導入電気使用量削減	目標:1,519 t-CO ₂ 実績:1,447 t-CO ₂ 104.7 %	工場稼働の拡大により前年度を上回ったが、目標を達成できた。継続的に生産効率化による低減に努める。
二酸化炭素排出量(燃料)の節減 ・エコドライブ運動の推進・蒸気潜熱低減、ボイラー管理強化	目標:2,653 t-CO ₂ 実績:2,781 t-CO ₂ 95.2 %	工場稼働の拡大により目標値を上回った。目標値を見直し、継続して生産効率化による低減に努める。
一般廃棄物の削減 ・消耗品の購入管理 ・分別BOXの管理、リサイクル意識向上	目標:36.3 t 実績:41.6 t 85.4 %	前年度から低減はしたが、発生原因の特定・排除を継続的に行う。
産業廃棄物の削減 ・有機溶媒の省力化・産業廃棄物管理	目標:60.2 t 実績:98.3 t 36.7 %	工場稼働の拡大や生産状況などにより目標値を上回った。目標値を見直し、継続して低減に努める。
節水 ・各工場への節水教育・退出時の見回り実施、節水意識向上	目標:98,728 m ³ 実績:125,545 m ³ 72.8 %	工場稼働の拡大により目標値を上回った。目標値を見直し、継続的に生産効率化による低減に努める。
化学物質使用量の削減 ・PRTR法対象化学物質使用量の確認 ・分析機器移動層の適正量調整 ・移動相使用量削減に向けたHPLC分析法の確立 ・エタノール回収量の把握と管理 ・残渣乾燥機のランニングコスト管理	PRTR法対象化学物質 目標:1.5 %減 実績:6.1 %減 エタノール 目標:3 %減 実績:29.5 %増	目標を達成できている。PRTR法対象化学物質は生産状況により使用量が大きく変動するため、常時使用量を把握し、削減に努める。 工場稼働の拡大により目標値を上回った。目標値を見直し、継続して生産効率化による低減に努める。
グリーン購入の推進 ・日用品、文房具の購入検討及び購入	目標:2品目追加 実績:12品目追加 600 %	目標を達成できている。継続して検討を進める。
製品毎の製造工程改善 ・作業時間の無駄改善	目標:— 実績:78 項目	課題の明示、改善に努める。
食品廃棄物のリサイクル率の維持 ・リサイクルの推進・動植物性残渣の低減	目標:80.0 %以上 実績:99.5 %	目標を達成できている。継続して管理を徹底する。
地域社会との共生 ・周辺地域の毎月1度の定期ゴミ拾い	達成	参加の呼びかけ、地域住民への挨拶などを徹底し、地域社会のさらなる活性化に努めていく。

東京支社

取組内容	達成状況	評価(結果と今後の方向)
二酸化炭素排出量(電力)の節減 ・エアコン設定温度の管理・未使用機器の電源を切る	目標:7.04 t-CO ₂ 実績:7.48 t-CO ₂ 93.8 %	前年度よりも電気使用量を低減したが目標は達成できなかった。さらなる管理の徹底・強化を図る。
一般廃棄物の削減 ・裏紙使用によるコピー用紙の削減・書類の紙媒体削減	目標:349.3 kg 実績:288.6 kg 117.4 %	目標を達成できている。継続して管理を徹底する。
節水 ・節水の周知徹底、節水機器の設置・退出時の見回り実施	目標:106 m ³ 実績:115 m ³ 91.5 %	前年度よりも水使用量が増えた原因を究明し、管理の徹底・強化を図る。
グリーン購入の推進 ・日用品、文房具の購入検討及び購入	目標:1品目追加 実績:3品目追加 300 %	目標を達成できている。継続して検討を進める。

総括(全体評価と見直し内容)
工場稼働の拡大により電気・燃料・水の使用量が増加したため、前年度よりも未達成項目は増えたが、管理および低減努力は継続して行っている。特にグリーン購入の推進努力は目覚ましい。産廃処理量が工場稼働の拡大や生産状況、一過的な産廃発生により顕著に増大した。一時的な環境負荷の増大を防ぐために、今後は計画的な産廃処理に努めていく。前期に重要課題として設定した製品毎の製造工程改善は、着実に実行できており、来期以降も重要課題として取り組んでいく。

※ただし、電力の二酸化炭素排出係数は東京電力2012年の値 = 0.525を使用する。

2016年度 環境活動計画

2016年度 部門毎取り組み予定

部門	項目	取り組み内容
製造部門	二酸化炭素排出量(電力)の節減	■ 終業時電気等消し忘れ防止対策 ■ 省電力機器の検討・導入による消費電力の削減
	二酸化炭素排出量(燃料)の節減	■ ボイラーの管理 ■ 減圧弁・安全弁・バルブ類点検と管理
	一般廃棄物の削減	■ 廃棄物分別の管理
	産業廃棄物の削減	■ 産業廃棄物の分別・整理・管理 ■ 食品廃棄物の分別の徹底及び管理
	節水	■ 工場内の水漏れの定期点検 ■ 工場用水の使用量の把握と管理
	化学物質使用量の削減	■ 使用量の把握と管理
	環境配慮製品の開発・販売促進	■ 課題の把握と管理
事務部門	二酸化炭素排出量(電力)の節減	■ 終業時電気等消し忘れ防止対策 ■ エアコン設定温度管理の徹底
	二酸化炭素排出量(燃料)の節減	■ 社用車の走行距離・ガソリン購入量の記録化 ■ 走行距離に応じたメンテナンス実施
	一般廃棄物の削減	■ コピー用紙の削減(裏紙使用、購入量管理) ■ 本社事務所の可燃ごみ重量測定
	節水	■ 使用量の徹底管理(データ更新&集計) ■ メンテナンスによる漏水防止
	グリーン購入の推進	■ 購入品の把握と継続的な購入推進
研究開発部門	二酸化炭素排出量(電力)の節減	■ 冷蔵庫・冷凍庫の使用方法の見直し ■ 休憩時、退出時等の消灯実施 ■ 裏紙の積極的な利用
	一般廃棄物の削減	■ 廃棄物の重量の把握 ■ ゴミ分別の徹底によるリサイクル率の向上
	産業廃棄物の削減	■ 適正な分別の徹底 ■ 廃液処理手順の見直し ■ ガラス器具の破損防止
	節水	■ 器具洗浄方法の見直し ■ 退出時に見回り、元栓の開閉を実施
	化学物質使用量の削減	■ HPLC移動相の適正量調査 ■ 計画的な購入と無駄の排除
営業部門	二酸化炭素排出量(電力)の節減	■ エアコン設定温度管理、スーパークールピズ対策 ■ 照明及び未使用機器の節電
	一般廃棄物の削減	■ コピー用紙の削減(裏紙使用、購入量管理) ■ 書類の紙媒体削減、可燃ごみの削減
	節水	■ 節水の周知徹底、節水機器の設置

中期目標(2016年~2018年)

	項目	基準値 (2013~2015年度平均)	2016年度	2017年度	2018年度
本社・工場	二酸化炭素排出量(電力)の節減	1,416 t-CO ₂	1,409(0.5%節減)	1,406(0.7%節減)	1,402(1%節減)
	二酸化炭素排出量(燃料)の節減	2,538 t-CO ₂	2,525(0.5%節減)	2,520(0.7%節減)	2,513(1%節減)
	一般廃棄物の削減	38.7 t	38.3(1%削減)	38.1(1.5%削減)	37.9(2%削減)
	産業廃棄物の削減	74.4 t	73.7(1%削減)	72.9(2%削減)	72.2(3%削減)
	総排水の節減	107,570 m ³	106,494(1%節減)	105,419(2%節減)	104,343(3%節減)
	化学物質 使用量の削減	PRTR法対象 化学物質	1%削減	1.5%削減	2%削減
	グリーン購入の推進	33品目	36品目(10%増加)	40品目(20%増加)	43品目(30%増加)
	製品毎の製造工程改善	課題改善	課題改善	課題改善	課題改善
	食品廃棄物リサイクル率の維持	99.0%	現状維持	現状維持	現状維持
東京支社	二酸化炭素排出量(電力)の節減	6,300 kg-CO ₂	基準値への低減	基準値以下を維持	基準値以下を維持
	一般廃棄物の削減	307 kg	現状維持	現状維持	現状維持
	総排水の節減	100.3 m ³	基準値への低減	基準値以下を維持	基準値以下を維持
	グリーン購入の推進	6品目	7品目(20%増加)	8品目(40%増加)	9品目(50%増加)

※ただし、電力の二酸化炭素排出係数は東京電力2012年の値 = 0.525を使用する。

環境関連法規制等の遵守状況

適用法令等の遵守状況

環境関連法規	該当する設備・項目	遵守評価
悪臭防止法	スプレー乾燥機、残渣乾燥機	○(届出、測定)
温対法	全事業所	○(定期報告)
下水道法	全事業所	○(定期報告、測定)
工業用水法	工業用井戸	○(許可、定期報告)
工場立地法	本社・工場	○(届出)
省エネ法	全事業所	○(届出、定期報告)
浄化槽法	浄化槽	○(届出、定期点検)
消防法	工場、蒸留塔、地下タンク 貯蔵所など	○(届出、測定)
振動規制法	工場設備	○(届出、測定)
騒音規制法	工場設備	○(届出、測定)
大気汚染防止法	ボイラー等	○(届出、測定)
廃棄物処理法	一般廃棄物及び産業廃棄物	○(定期報告、 マニフェスト管理)

環境関連法規	該当する設備・項目	遵守評価
フロン回収破壊法	冷蔵、冷凍コンテナ等	○(証明書の管理)
食品リサイクル法	食品廃棄物	○(定期報告、 リサイクル率 98.3%)
家電リサイクル法	対象家電機器	○(廃棄実績の確認)
PRTR法	第一種指定化学物質	○(管理)
労働安全衛生法	本社・工場	○(健康診断、環境測定)
毒劇物取締法	毒物、劇物	○(管理)
公害防止組織法	本社・工場	○(届出)
容器包装リサイクル法	容器包装資材	○(申込み)
高圧ガス保安法	高圧ポンプ等	○(管理)
自動車リサイクル法	自動車	○(確認)
化審法	既存第二種監視化学物質	○(管理)
肥料取締法	堆肥場	○(届出、測定)

違反、訴訟等の有無

上記のように環境関連法規制等の違反はありません。
また、食品リサイクル法における再生利用等の実施率は99.5%と維持できています。
なお関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありません。

代表者による評価と見直し

総括

環境経営に取り組み8年が経過し、PDCAサイクルによる継続的な改善・是正により、環境経営の基盤が整備されつつある。本年度の新たな取り組みとしては、循環型社会のための3R(Reduce、Reuse、Recycle)の推進に、グリーン購入の全社的意識を高めた。加えて、地域の人々との共生に向け、従来行ってきた周辺美化地域に加え、地域消防活動を開始した。いずれの取り組みにおいても、一定の成果を挙げることができた。

一方で、生産の増大に伴い、環境負荷も増大している。事業拡大に生産の増大は不可欠だが、今後更なる省エネ・省資源・生産性改善により、環境負荷を最小限にしていきたい。

株式会社常磐植物化学研究所 <http://www.tokiwapl.co.jp/>

本社/工場: 〒285-0801 千葉県佐倉市木野子158番地

TEL043-498-0007 Fax043-498-0561

東京支社: 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町4-4-16 日本橋内山ビル6階 TEL03-5200-1251 Fax03-5200-1256

常磐植物化学研究所 CSR Report 2016 (社会・環境活動レポート2016)